神戸女子短期大学　論攷　47巻　135－149（2002）

―ノート―

総合演習の実践と問題点[1)]

－難民問題を探求したグループを例にして－

半田　博

Records of Practice and Problems with the Curriculum for “Sogo-Enshu”

Hiroshi HANDA

要　旨

昨年度、われわれは「総合演習」のカリキュラムを編成した。本稿は、左記のカリキュラムに基づいて1年間実践してきた授業の記録とその問題点についての報告である。

キーワード：総合演習　Sogo-Enshu,
授業計画　teacher’s plan,
課題解決学習　problem solving method,
教授法の基礎技術　practice basic skills by teaching,

はじめに

本短期大学の初等教育学科では，新免許法に基づいて「総合演習」の科目を平成12年度から開いた。われわれは，その科目を行なうために，昨年そのカリキュラムを編成したり，教科書を作成するなど，開設に向けて準備した。

「総合演習」の科目は学生に，課題解決能力，実践的指導能力，およびコミュニュケーション能力を陶冶するために設けられているが，そのカリキュラム編成[2)]にあたり，次に示す基本方針を立てた。課題解決学習の採用，授業案作成作業，模擬授業，および研究報告会の機会の確保である。

以下に示すものは，われわれが作成したカリキュラムと，難民問題探求グループの授業実践の記録である。われわれは授業の結果が所期の目標を達成しているか否かを十分に吟味し，さらに望ましいカリキュラムを今後再編成したいと考えている。

Ⅰ.「総合演習Ⅰ」の授業計画と実践　(初等教育学科１年生を対象，後期)

１．この授業科目の目標

本科目は教員を志すものに，地球的な規模に立って行動するための資質能力や課題解決能力の基礎を養うために設けられたものである。

この授業のはじめの部分で，この科目が新設された社会的な背景，この科目で伸ばそうとしている資質能力を明らかにする。授業の大部分は，人類共通のテーマやわが国全体が関わるテーマ群の中から，学生が興味・関心のあるテーマを選び，課題解決的な手法を用いて現状を把握するとともに，それらの望ましい在り方についてディスカッション等を中心にして進める。

したがって，本科目は地球的な視野に立って行動するための資質能力や課題解決能力を高めるだけでなく，コミュニケーション能力等も合わせて陶冶することを狙っている。

２．授業計画（全14時間）

①総合演習で培う資質能力　1時間
（総合演習が設けられた社会的背景とこの科目で培う資質能力）
②総合演習の特徴と総合学習との関連　1時間
③一般的な科学の方法・資料収集の仕方と処理の仕方　（文系）　1時間
同上　（理系）　1時間
④コンピューターでの検索の仕方等，その取り扱い方　1時間
⑤総合演習で取り扱うテーマとテーマの選択　1時間
⑥グループ別による調査活動　5時間
⑦資料処理とレポートの作成　3時間

３．上記授業計画による授業記録の概要と特質

以下に掲げるのは，上記の授業計画による授業記録の概要である。学生全員を対象にして行なった授業は内容だけを箇条書きで記したが，難民問題探求グループ内での授業については，やや細かく授業活動をも記した。

（全14時間）

第１次～第３次は一斉授業　（学生数約100名）
第４次～第５次はグループ別による授業　（学生数５～20名）

第１次　総合演習が目指すもの　2時間

第１時間目　本科目が設けられた社会的背景と目指す能力

教科書[3)]の「１章　総合演習が目指すもの」を使って，この科目が生まれた背景，本科目が目指す能力（課題解決能力，コミュニケーション能力 ）について説明した。

第 2 時間目　総合演習と総合学習との関連性

教科書の「 2 章　総合的な学習」を使って，本科目と総合演習との関連について説明した。そのあと「総合演習Ⅰ」「総合演習Ⅱ」の年間授業計画について説明した。

第 2 次　一般的な科学の方法・資料収集の仕方と処理の仕方　3 時間

第 3 時間目　一般的な科学の方法・資料収集の仕方と処理　（文系）

第 4 時間目　同上　（理系）

第 5 時間目　コンピューターの検索の仕方など，その取り扱い方

・上の授業はいずれも講義

第 3 次　総合演習で取り扱うテーマとテーマの選択　1 時間

（情報問題①，②・環境問題・文化・難民問題・老齢化・少子化問題）

第 6 時間目　・各テーマの紹介・テーマの選択とグループ編成

第 4 次　グルー別による調査活動（第 4 次〜第 5 次は難民問題探求グループの授業だけを記した）　5 時間

第 7 時間目　難民問題への課題の把握①

難民問題への関心を高め，課題を把握させるために，学生全員に難民の現状を収録したビデオ[4)]を視聴させた。その後ビデオをみた感想を相互に発表させた。さらに，もっと難民の現状について知ろうとする学生には，手持ちのビデオ[5)]を貸し出した。

第 8 時間目　難民問題への課題の把握②

前時に引き続き，難民問題を把握させるために，児童向けに編集された小冊子[6)]を配布した。それらの資料を一読させたあと，各自がテーマを設定できるよう，学生相互にこの本を読んだ感想を発表させた。次に，参考文献について紹介したあと，手持ちの図書[7)]を学生に貸し出した。

第 9 時間目　研究計画の設定

・研究計画の作成①

教科書の「 5 章のⅠ　国際問題（地球規模問題）へのアプローチ事例・難民 」を使って，研究計画の立て方や手順を説明した。

第10時間目

・研究計画の設定②

前時に引き続き，研究計画を立てる作業を続けた。その後，学生各自が立てた研究計画についての報告会を開いた。

第11時間目〜第13時間目　調査活動

実際の文献調査，フィールド・ワーク等の調査活動を行なった。学生のグループの中にはアンケート調査用の質問紙の作成に取り掛かり始めた。

第５次資料処理とレポートの作成　　１時間

第14時間目　資料処理とレポートの作成

Ⅱ.「総合演習Ⅱ」の授業計画と実践　（初等教育学科２年生を対象，前期）

１．この授業科目の目標

本科目は教員を志すものに，地球的な規模に立って行動するための資質能力，課題解決能力，および実践的指導能力等を養うために設けられたものである。

この科目は総合演習Ⅰで学生が自ら探求して深めた内容を，子どもたちの発達段階に応じてどのように教えればよいか，その授業案を学生自身が主体的に作成するとともに，模擬授業を行ったりして実践的な指導能力を高めることを目的とする。

はじめに，一般的な授業案作成の手順についての理解を深めたのち，グループで授業案を作成する。それらができあがった段階で全体報告会を開き，望ましい授業案にするための検討を行う。

次に，模擬授業の目的や初歩的な授業技術についての理論的な理解を深める。そのあと，実際に模擬授業を行ったり，授業研究会を開いて望ましい授業の展開の仕方について検討する。

授業作成などではディスカッションやグループ活動を中心として授業を進めるので，コミュニケーション能力や協力性などを合わせて陶冶することができる。

２．授業計画（全14時間）

①総合演習Ⅰでの成果についての発表　　１時間

②一般的な授業案作成の仕方　　１時間

③一般的な保育案の作成　　１時間

④グループ別による授業案等の作成　　５時間

⑤全体報告会で授業案等の発表　　１時間

⑥模擬授業等の実践　　３時間

⑦公開模擬授業　　１時間

⑧全体のまとめ　　１時間

３．上記授業計画による授業記録の概要と特質　　（全14時間）

以下に揚げるのは，上記の授業計画による授業記録の概要である。

難民問題を扱った学生は20名。

第１次～第２次，第３次の第９時間目，第４次の第13時間目は一斉授業　（学生数約100名）

第３次第４時間目～同第８時間目，第４次の第10時間目～第12時間目，第５次はグループ別

による授業　（学生数５～20名）

第１次　総合演習Ⅰの成果の発表　1時間

第１時間目　「総合演習Ⅰ」で調査活動を行なった学生の全体報告会を開いた。

第２次　一般的な授業案作成の仕方　2時間

第２時間目　一般的な授業案作成の仕方

教科書「６章　授業案作成の仕方」を使って，一般的な授業案作成の仕方について講義したあと，具体的な教材として，NHK 制作のビデオ「襟裳岬に春を呼べ，北の家族：奇跡に挑んだ半世紀，砂漠を森に変えた」[8)]（2001･3･6にプロジェクトXで放送）を視聴させた。

第３時間目　ビデオ内容をもとにした授業案の作成

「砂漠を森に変えた人々」の授業案[9)]を提示し，再度具体的な授業案の作り方について説明した。そのあと，授業案を作成させた。

第３次　グループ別による授業案の作成作業（第３次～第４次は難民問題探求グループの授業記録）６時間

第４時間目　授業案の作成の手順

教科書「７章　『難民問題』の授業案」を使って，難民問題の授業の構想や細案の立て方について説明した。

第５時間目～第８時間目

学生が難民問題の授業案作りに取り掛かった。グループ内の全員が完成した段階で，グループ内で，授業案についての検討会を開いた。

第９時間目　全体報告会

今までの研究成果について，６グループの学生の代表が発表した。

第４次　模擬授業の実施　4時間

第10時間目　模擬授業のねらい，方法（とくに，マイクロティーチング）

教科書「９章　模擬授業」を使って，模擬授業のねらい，やり方等について説明した。

第11時間目・第12時間目

・模擬授業の実践・実習　模擬授業の実践

第13時間目　公開模擬授業

・発表　学生の模擬授業

第５次　全体のまとめ

第14時間目　「総合演習Ⅰ」「総合演習Ⅱ」のまとめ　1時間

・討論　この科目から学んだこと

Ⅲ.「総合演習Ⅰ・Ⅱ」の実践後の反省（授業結果の評価）

1．授業評価の視点

われわれが意図した学習内容を学生はどの程度習得したであろうか。また，授業の方向目標である，課題解決能力，実践的指導能力，コミュニケーション能力をどの程度形成したであろうか。本年度は初年度であり，授業をどのように進めればよいかということに追われたため，授業の学習効果を測定するための客観的なテストを行う準備と実施する時間的な余裕をもてなかった。

今回は平常の学生の授業態度を観察したり，学生のレポートを読んだりした印象的な範囲ではあるが，授業分析をし，今後の授業改善に役立てたい。次回にはより客観的なデータに基づく報告をしたいと考えている。

2.「総合演習Ⅰ」について

1）本科目のねらいについての理解

客観的なテストを実施していないためその実態は把握できていないが，教科書に明示されているとともに，授業過程の幾つかの段階で説明しているので，かなりの学生は理解していると考えられる。

2）課題解決能力の育成

意味のあるテーマを把握し，課題解決の手法を駆使できた学生はどの程度いたのであろうか。課題解決の一連の過程の各段階ごとに検討してみよう。

①課題把握

課題を把握するまでに要した時間は学生によってさまざまであるが，最終的には全員がテーマを選定することができた。学生が小学生用に作られた「難民問題」の冊子を読んだり，ビデオを視聴したことが課題を把握する上で有効な方法であったと考えられる。ビデオを視聴したあとの学生の感想文を見てみよう。

『難民が世界中にたくさんいることを知りました。日本は情報化社会なのに「難民」の問題が世界中に起こっていても，自分に関係ない問題だと思う人が多いのではないかと思います。わたしたちは，難民の現状をもっと知るべきだと思います。民族紛争や差別，迫害などで家を追い出され，幼い子どももたくさんいて，本当なら平和で楽しく送れるはずなのに，祖国を離れなければならないという現状を見て，辛くなりました。子どもは心にどれだけ傷を負っているか計り知れないと思います。今も祖国に帰れず苦しんでいる人たちがいることは悲しい現実です。難民を救うために活動している団体もあります。そういった人たちを増やしていくべきだと思いました。』

『難民の子どもたちは，身近に「死」を体験しているのだと思った。自由になって勉強したいといっていてすごいと思った。スイスの子が言っていたように難民でない私たちがむだなも

のやお菓子を買うお金を寄付したら，難民の人たちを少しでも助けることができると思う。もっとみんなが難民について学び，考え，話し合い，難民をなくす努力をすべきだ。自分より若い子がすでに弟，妹，家族のために働いているのを知り驚いた。』

『幼い子どもが，自分の兄弟のために働いている。勉強したくてもできないし，自分のやりたいこともできない環境だった。自分の親が目の前で殺されたりしていたら精神的におかしくなると思う。それでもカメラの前では子どもたちは淡々とそのことを語っていた。きっと社会にたいして恨みをもっていると思う。』

学生の感想文を読むと，悲惨な難民の状況に強い衝撃を受けていることが分かる。

②研究計画の作成

およそ研究というものは，しっかりとした研究計画が立てられれば既に半ば成功であるといわれている。

研究計画を立てる際に，第 1 に考えねばならないことは，研究目的を明確に把握すること，第 2 はその目的に沿った研究内容を選択することである。このことに関して学生の実態を見てみよう。

☆研究目的

そもそも研究テーマを考えるときには，当然ある程度の研究の目的や内容について考えるはずである。例えば学生が「難民問題の研究」というテーマを考える場合には，「難民とは何か，また難民はどの地域で発生し，どのような苛酷な生活を強いられているのか，それら難民に対してだれが救済活動をしているのか」というようなことを心の底に思っていることであろう。そのような心の底で思っていることは漠然としている場合が多い。多くの学生は，難民の現状だけを追求したいのか，それともさらに一歩踏み込んで国連の活動まで探求したいのか，その研究の深さや広がりを明確に押さえていなかった。研究目的を簡潔にまとめる指導が今後必要である。

☆研究内容

テーマに即して，どのような内容を抽出すればよいのか，そのやり方をどの程度できたのであろうか。教師が難民問題を例にして説明していた段階では理解できていた学生でも，自己のテーマに即した内容を抽出することはかなり難しかったようである。内容を多くもり過ぎたり，逆に少なすぎたりしていた。高校時代にこの種の学習を経験していないためであろう。「適切な内容の選択」の仕方を理解させるには，もう少し時間を与えて，きめ細かく個別指導をすることが必要である。

☆研究方法

研究方法を考えるさいにまず第一に行うことは，調査対象範囲を決定することである。今回の授業ではフィルドワークを行う学生は皆無（研究計画を立てた当初，難民救済活動をしている NGO を訪問する計画を立てた学生はいた）であったが，調査活動（文献による資料収集を

含む）をする場合，調査すべき全対象についてすべて調査する全数調査にするか，それとも全対象から一部分を抜き出して調査し，得られた結果から全対象について推定を行なおうとする標本調査の方法にするか，それとも特定の地域や一集団を対象に調査する事例研究にするかを決める必要がある。学生はこの面をあいまいにしていた。

第 2 は研究方法の選定である。難民問題を研究する場合，調査票・質問紙・面接による調査，あるいは文献研究によるもの，インターネットでの検索等，いろいろなやり方がある。これらの中から一つをとる場合もあるし，さまざまなものを併用する場合もあるが，学生が採用したのは主に文献研究であり，次がインターネットによるものであった。

研究方法を考える際考えておかなければならないことは歴史的にみていくか，それとも他の地域との比較を通して明らかにしようとするのか，それとも両者を合わせて考えていこうとするのか考えることが必要であるが，学生にはなかなかこの区別がつかなかったようである。例えば，ソマリア難民が発生した理由をみていく場合，単にソマリアだけでなく，ルワンダ，チェチェンなどと比較してみることが必要である。同じ難民といっても民族闘争によるものか，独立闘争によるものか，政権闘争によるものか，あるいはこれらの複合した原因によるのなのか，その発生原因は異なるわけであるから，比較研究をすることが大切である。この意味を理解できていなかった学生もいた。

③調査活動

☆資料収集の仕方

次に，問題の解決に必要な資料をどのようにして得たのであろうか。実際にどのように活動したのであろうか，このことを明らかにしてみよう。難民問題を扱うのであるから，研究の方法は，図書館にいって必要な図書を借りてきたり，インターネットによる収集が主になる。

まず，図書館の利用のようすをみてみよう。

公立図書館や大学の図書館を利用し，こども向けの本および大人向けの本等，平均 3 冊借り出していた。教師が配布した小冊子や資料だけに頼りすぎていることが分かる。

☆調査活動の問題点

学生の調査活動にはいくつかの問題を含んでいる。

第 1 は，調査活動に十分な時間を確保できなかったことである。

「総合演習Ⅰ」の授業のメインサブジェクトは，研究計画の設定と調査活動である。

したがって，調査活動に十分な時間を配分すべきであったが，それを確保することができなかった。その原因はこの調査活動を行なう時間と教育実習の時期とが重なり，調査活動の方を中断しなければならなかったからである。

もう一つは学生が研究計画を立てるまでに予想以上の時間を要したからである。次年度はこの問題を解決することが必要である。

第 2 は，実地の見学・参加やフィールドワークの活動を取り入れられなかったことである。

研究計画をを立てる時点では，調査活動として文献の収集の他に，難民救済活動をしているNGOのインタビューや一般市民に難民問題についての意識を調査する活動を予定していたが，実際には計画どおりにはいかなかった。

第3は，前述したごとく，学生は配布された小冊子だけにたより，必要な文献（主として図書）を収集する活動を 十分に行なわなかった，というより行なえなかったことである。

学生は図書館に何回も足を運んで文献を探すという努力が足りないように思われた。本短大の初等教育学科の学生の時間割りをみると，ほとんどの学生は空き時間をとれない。そのような現状下では，新設されたこの科目をその理念（科目の教育目標）どおり行なうことがやや不可能であると思われる。科目の理念と学生の能力，その他の条件を考慮しながら再度カリキュラムを編成していくことが望まれる。

④研究成果（データの処理とまとめ方）

この段階では，調査の方向が定まらず，必ずしも円滑に調査がすすんだわけではない。その間，介護体験実習で一人欠け，戻ってきたかと思えば次が欠け，授業の後半はすべての学生が一同に集まることが出来なかった。そのような条件のなかで行なわれたが，学生が行なった研究の成果は必ずしも悪いできではなかった。なかには必要以上の資料を入れたり，その反対に資料が欠けていたり，いわゆるオーバーステイトメント的なものやアンダーステイトメント的な面もあった。しかし，授業外で何回も推敲した結果，研究目的に照らしてふさわしい内容のレポートにまで仕上げることができたと考えられる。

3）コミュニケーション能力の形成

この能力が形成できたか否かを判定することはかなり難しいが，次の2点で見ていくことにした。

第1は研究目的に照らしてレポートが論理的でかつ分かりやすいものになっていたか。第2はグループ活動で，例えば研究計画を作成するときに自己の意見を十分にだしたり，人の意見に謙虚に耳を傾けて聞くことができたか。

その結果は次のごとくである。

第1の点について。短大に入学して半年後に初めて経験するかなり長文のレポート作成であったということを考えると，学生に差はあるがそれぞれが精一杯努力した結果，かなり筋の通ったレポートに仕上げていた。したがってこういう見地で見ると，学生の言語のコミュニケーション能力はかなり高まったと考えられる。

第2の点について。研究計画を作成する段階で十分な学生相互の間での討論の機会を設けた。たどたどしい発表もあったが，それなりの効果があったと考えられる。

3.「総合演習Ⅱ」について

1）本科目のねらいにつての理解

この科目のねらいについては「総合演習Ⅰ」の冒頭で，また，この科目の第1時間目に説明をしているので，学生の大部分は理解していると考えられる。

2）実践的指導能力の育成

この科目では，実践的指導能力を2つの側面から育成しようとしている。一つは授業案の作成であり，他の一つは模擬授業の実践である。この2点から，実践的指導能力をどの程度高めたのかを見てみよう。

①授業案の作成

☆一般的な授業案作成の理解

本短大では1年生から，教育学の専門科目を履修させているが，ほとんどの科目は原理的な内容であり，教科教育に関する科目は1年後期から始まるが，主として2年生の前期から後期にかけて集中している。そのため，学生が授業案を作成する機会は少ない。この科目で初めて学習するものが大多数である。したがって授業案のイロハから指導することが必要になる。

この科目では「総合演習Ⅰ」で学んだ内容のなかから，小学校の高学年に教えたい箇所を選んで，授業案や教材を試行的に作成できるような能力を育てることに重点をおいている。

一般的な授業案作成の仕方について講義したあと，具体的な教材として，NHK制作のビデオ「襟裳岬に春を呼べ，北の家族：奇跡に挑んだ半世紀，砂漠を森に変えた」[8)]（2001•3•6にプロジェクトXで放送）を視聴させた。本来なら難民探求グループはそれに関するビデオを視聴する方が適当と考えられるが，他のグループとともに一斉学習形式で行なうので，どのグループのテーマに属すことなく，かつ，感動的な内容の条件を満たしている上記のビデオを採用した。

そのビデオの粗筋については，柳　史子氏の解説[8)]を参考にされたい。

このビデオを視聴させた次の週の授業で，これを題材にした小学生向けの授業をどのように組み立てるかについて検討させた。そのさい，学生を一方的に突き放して「書きなさい」といっても書くことは不可能なので，その具体的な授業案のモデルを[9)]一点示した。それを組み立てるにあたっての授業構想，授業目標，授業の過程（授業の内容や配列，授業の各段階での活動）などについて説明した。

この授業案の作り方の説明で，どの程度理解されたか，それについてのテストは行なっていない。このビデオ視聴が有効な教材であったか，今後明らかにしたい。

☆授業の構想

授業案作成の手順は，目標の設定，授業過程（内容と内容の配列，子どもの活動），教具，板書というように進めるのが常であるが，記述化する前の段階で，授業の構想について学生に発表させておくことが大切である。その発表を聞くことによって授業者の意図や創造性や熱意

が感じとることができるとともに，学生相互間で検討することによって，よりよいものになっていくのではないかと考える。今回の授業では，学生の進めかたが遅く，授業の構想について相互に発表する機会をもつまでには至らなかった。

☆授業案の実際

小学校5・6年生を対象にした授業案の作成を学生に課した。現職の教員でも授業案を作るのは難しいと言われている。とくに「総合演習Ⅱ」で作成しようとする場合，教師用指導書を参考にすることができないので，一般的な授業案の作成の仕方を十分に習得していなければならない。今回の学生の授業案をみていくつかの問題点を指摘してみよう。

第1は，授業への問題意識を高める工夫が弱い。

児童が問題意識をもってある事象の学習に取り組むとき，児童の目は輝き，盛んな学習意欲をもって学習が進められることは周知の事実である。学生が作った素案の段階ではこの意識を高めようとする意図が見えなかったが，何回か推敲を重ねるたびに徐々に望ましい授業案へと近付いてきた。

第2は，多くの学習内容をもりこみすぎる。

学生の授業案をみると内容が多く，1時間では学習できないほど内容を入れすぎている。精選するということに留意することが必要である。

第3は，授業が平板に流れている。

1時間の授業を児童が興味をもって取り組むようにするためには，それなりの工夫が必要である。学生の授業案はバーバリズムに陥りやすいと思えるほど，ことばだけの授業になっている。多様な学習活動を取り入れたり，具体的な提示物を用意するなど，平板な授業を打ち破ることの必要を今後理解させたい。

②模擬授業実施の成果

模擬授業はマイクロティーチング方式で行った。学生はマイクロティーチング方式で模擬授業を行うのは今回が初めてであった。そのせいか緊張気味であったが意欲的に取り組んでいた。最初の段階としては，予想していたよりも効果を上げえたと思う。そうした中で気がついた点を幾つか挙げてみよう。

第1は，「授業者」役としての学生は，かなりその役をうまくこなしていた。細案形式の授業案を用意し，予め児童への問い掛けや説明が考えられていたためであろう。それに対して「児童役」としての学生は教師役の学生の適切な設問にも関わらず十分な応答ができていなかった。

第2は，模擬授業でも教具，教材をそろえて臨むことが望ましい。ことばだけによる授業が多かったが，バーバリズムに陥りやすい。

第3は，模擬授業を実際に行なったことによって，授業を展開することの難しさを学生は体得できた。今後は，その経験をふまえて，授業への自信をもてるように，初歩的な実践的な指

導能力を研いて欲しい。

Ⅳ．まとめ

以上の考察した結果，本カリキュラムを次のように改訂することが望ましいと考える。

1）「総合演習1」

・研究計画書の作成，調査活動に指導の重点をおくこと。この科目のねらい等は1時間で指導すること。

・一般的な研究方法はグループわけをしたのち，それぞれのグループ内で指導すること。

・可能な限り，実地の見学・参加や調査（フィールドワーク）を取り入れること。

2）「総合演習Ⅱ」

・一般的な授業案の書き方については，それぞれのグループで指導すること。

・模擬授業を全員の学生ができるよう配慮すること。そのさいできるだけ掲示物を用意するなどして，実際の授業に近付ける形で行なえるようにすること。

われわれのカリキュラムとその実践の結果には，なお不十分な点が存することを認めなければならない。今後研究を積み重ねて，学生に授業への興味を起こさせ，課題解決能力や初歩的な実践的指導能力を陶冶できるカリキュラムを開発して行きたいと考えている。

注

1）半田博『「総合演習」カリキュラムの実践と反省』と題して2001•10•6日本教師教育学会（於・東京学芸大学）で発表

2）半田博『「総合演習」のカリキュラム編成の一つの試み』 神戸女子短期大学紀要「論攷」第46巻 pp.121～128 2001•3

3）奥山晃弘・半田編著「総合演習のワークノート」 田研出版 2000

4）学生全員に以下のビデオを視聴させた。

「難民もみな同じ地球人」 UNHCR 制作

「ほんのちょっと変えてみよう」 UNHCR 制作

「世界の難民はどこに」 UNHCR 制作

5）学生に貸し出したビデオの一覧

NHK スペシャル「わがいとしのコソボ・難民キャンプ・引き裂かれた日々」

NHK スペシャル「憎しみを越えられるか，戦争の記憶と戦う子供たち▽コソボ小学校の半年」2001•2

NHK スペシャル「ルワンダ①大虐殺への道・激化した部落抗争」 1996•2•17

NHK スペシャル「なぜ隣人を殺したか・ルワンダ虐殺と扇動ラジオ放送・加害者の告白」 1998•1•18放送

NHK スペシャル「『飢餓と内戦のスーダン』地雷を避け150万人の命を救え」 2000•9•24放送

NHK スペシャル「『難民と歩んだ10年』緒方貞子さんが語る」

海外ドキュメンタリー「『コソボの紛争・その構図と歴史的背景』民族運動の起源」 1995•5•14教育

放送

「難民になるってどういうこと」 UNHCR 制作

6）学生全員に配布した冊子

「難民の子どもたち」　19頁 UNHCR 制作

「わたしたちの難民問題」24頁 UNHCR 制作

7）学生に貸し出した図書

「世界難民白書」 UNHCR 制作

「難民 Refugees」 UNHCR 制作

「国際連合の基礎知識」 国連広報センター制作

拙書「シリーズ・国連 3　人権へのとりくみ」リブリオ出版

拙書「シリーズ・国際協力 4　難民」リブリオ出版

8）柳　史子『「いのちをかけたマイスター」 母と子2001年 5 月号p19 母と子社』に掲載の文章を抜粋し，再掲させていただいた。

★なんていい顔なんだろう

ニュース以外あまり見ない NHK でときたま見入ってしまうのが「プロジェクトX」というドキュメントもの。先日は襟裳岬の海岸に植林し続けた人たちの話だった。日本版「木を植える人」だが，あの「木を植える人」なんかよりずっとずっと地についていてよかった。

明治期に入植した人たちが薪にするために海岸の松を伐採し，海岸はどんどん砂漠と化してしまう。砂が海に流れ込むために，だいじな生活の糧の昆布の質が低下，それをなんとか食い止めようと何十年もかかってあれこれ試し，植林に成功した地元の人たちをクローズアップしたものだった。

どんなに種を蒔いてもあの岬独特の強風で飛ばされてしまう。困り果てて，ふと思いついたのが強風にも飛ばされない海草。それを種の上に敷き，やっと芽が出て第一難関突破。ところが，喜んで松の苗を植えたところ全滅してしまう。地層に問題があった。溝を掘らなければならない……。

そんな苦難のときに，森進一の「襟裳岬」が流れる。「襟裳岬」はご当地ソング，脚光を浴びて地元の人は喜んだだろう……と思って見ていた。ところが，最後の歌詞「襟裳の春はなにもない春です」に地元の人たちはガックリし，怒ったのだった。

ドキュメントはその中で一組の夫婦とその息子を追っていた。

やっと緑が戻り，浜と質の良い昆布を前に語る夫婦，親子の顔がなんともすばらしい。なんていい顔をしているのだろう！　こういう人たちがいる間は日本はだいじょうぶだ，と思ってしまった。

ラスト，浜辺で地元の人たちが歌う。「襟裳の春は世界一の春です」と。ひとりで見ていたのに，私はテレビ画面に拍手していた。

9）「砂漠を森に変えた人々・（森林の働き）」の総合演習の授業案

総合演習の授業案（私案）

指導者

1．題材　森林の働き

2．本時の目標

・森林が豊饒の海には欠くことのできない重要な働きをしていることを理解させる。

3．本時の授業過程　　＊印：教師の発問　　・印：予想される児童の活動

学習内容	主な学習活動	指導上の留意点
1．学習課題の提示	＊60年間黒松の森林づくりに生きたコンブ漁の漁師の物語です。黒松の森づくりはコンブの森づくりに，どのような影響を与えたのでしょうか。	・インパクトのある導入を工夫する。
2．貧困な漁師の暮らし	＊北海道の襟裳岬で60年間にわたる森づくりをしてきた飯田常雄さんの記録を紙芝居にしました。まず，この記録を見てみましょう。 （コンブ漁が不作な時代の紙芝居を見おわった段階で，次の発問をする。）	
1）コンブ漁の不作	＊終戦直後の襟裳岬の村の生活は，どんな様子でしたか？ ・コンブ漁をしている人たちは，不作続きで貧困な生活を強いられていました。	・手作りの紙芝居を使うこの段階では，その内の貧困な時代だけを児童に見せる。
2）コンブが採れなくなった原因 ・薪炭用利用による黒松林の伐採 ・赤土や砂の湾内への流出	＊豊饒の海といわれていた襟裳岬のコンブはなぜ採れなくなったのですか？ ・戦後松林を燃料として燃やしたからです。 ・岬のまわりが砂漠化したからです。 ・赤土や砂が湾に入りこんで，コンブの芽を塞いだからです。	
3．漁師（飯田常雄）が森づくりに取り組んだ動機と期待 ・動機 ・期待	＊森づくりを始めようとした頃の，飯田さんの行動を紙芝居で見てみましょう。 （飯田常雄が森づくりに取り組むまでの紙芝居を見おわった段階で，以下の発問をする。） ＊森づくりの主人公は，もともと漁師なのに，どうして森づくりに取り組んだのですか？ ・飯田常雄さんは，奥さんの雅子さんを幸せにしたいと考えたからです。 ・襟裳に豊穣な海を取り戻したかったからです。 ・襟裳の故郷を自分たちの手で豊かな村にしたかったからです。 ・砂漠化した襟裳岬に木を値えることによって，コンブの森が再び蘇り，豊かな生活ができるのではないかと考えたと思います。	・終戦直後の時代，村を離れて職を求めることは不可能であったという社会的な背景を把握させる。
4．60年間にわたる森づくりの苦労や工夫	＊森づくりはいっぺんに出来上がったわけではありません。何回かの挫折があり，その度にそれを努力や工夫で乗り越えてきました。その記録を紙芝居で見てみましょう。 （森づくりに数回挫折し，また，それを乗り越えていった様子の紙芝居を見おわった段階で，以下の発問をする。）	
・牧草地の育成と挫折 ・枯れた苗木とその問題の克服 ・親子・村中の協力	＊森づくりをしていく際にどのような問題がおきましたか？また，それをどのようにして克服しましたか？ ・牧草地の育成にとりかかりましたが，種の定着に苦労していました。雑コブをかぶせることで解決しました。 ・苗木が枯れ始めました。溝を掘ることで解決しました。 ・親子や村の人たちの協力で，乗り切れました。	
5．森づくりの成果 1）豊かな漁師の生活 ・大量のコンブの収穫 ・貧困からの脱出	＊森づくりが完成したことによって，襟裳の海はどう変わりましたか。また，飯田さんの家はどのようにかわりましたか？ ・大量のコンブが採れるようになりました。 ・コンブが採れるようになったことで，生活は豊かになりました。 ・飯田さんの孫がコンブ漁師になろうとしています。 ・日本で有名な日高コンブが大量にとれて消費者も喜んだと思います。	

2）森林がコンブの森づくりに果たした役割	＊黒松の森林がコンブの森づくりにどのような影響を与えたのでしょうか？ ・森林や牧草が成長することで砂漠化が止まり，砂や赤土が飛ぶのを防いでいます。 ・砂や赤土が湾に流れこまなくなり，コンブの芽を塞ぐ障害物がなくなりました。 ・黒松の森林でできる腐葉土がコンブの成長に必要な肥料となっています。 ・それらのことの複合作用で豊饒の海へと回復しました。	・この学習段階は本時の重点内容である。
6．この学習で学んだこと	＊この学習を通してどのようなことを学びとりましたか？ ・初心を忘れないで，何十年間も森づくりに努力したからよい成果を得ることができたと思います。何事にも努力が必要だということが分かりました。 ・森づくりにはそれを作ろうとする情熱も必要ですが，それを成功させたのは，学者や技術者の科学的な支援があったからです。やみくもにやっていたら失敗していたと思います。 ・豊穣な海を維持するには，豊かな山が必要だということが分かりました。 ・自然環境を壊すと，それを回復させるには長い時間と努力とが必要になるということが分かりました。	